

○校訓 「鷹志（ようし）」（R2. 7. 10 制定）

「鷹」…鷹は、一度高く飛び立つと必ず獲物を捕らえようとすることから、「粘り強く努力するたくましさ」を意味する。また、鷹施中学校に引き継がれてきた、獲物を捕らえる鷹のような「不撓不屈」の精神や、高志野中学校の校歌の一節「質実と剛健」の気概も表現する言葉でもある。

「志」…自分の目標や願いだけでなく、他者の願いや目標を理解し、「共に支え合いながら、粘り強く努力する姿勢」を表現する言葉である。

※学校教育目標や目指す生徒像の基本となる精神を象徴

○学校教育目標（学校の理念…実現を目指す）

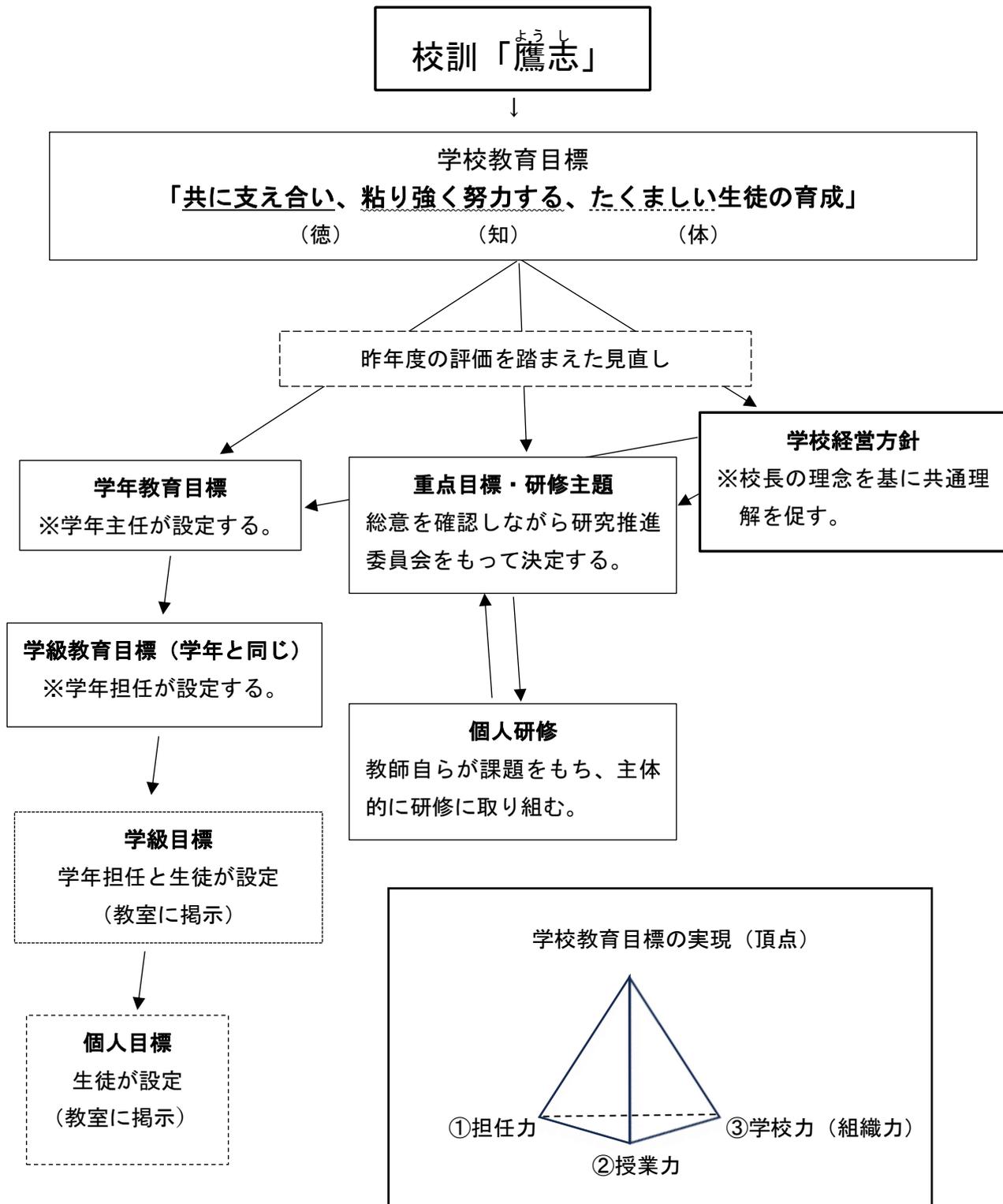
「共に支え合い、粘り強く努力する、たくましい生徒の育成」

- ・ 共に支え合い（志）→主に徳育
- ・ 粘り強く努力する（鷹）（志）→主に知育
- ・ たくましい生徒（鷹）→主に体育

○目指す学校像（教師の目標…達成を目指す）

- ・ 共に支え合い、助け合う学校（志）→主に徳育
- ・ 粘り強く、学び合う学校（鷹）（志）→主に知育
- ・ たくましく、鍛え合う学校（鷹）→主に体育

○校訓につながる教育活動の全体構想



※校訓と目標、主題、研修テーマ等の一貫性を常に意識して教育活動に当たる。

・原点に立ち返ることで、目的、ねらいが明確になる。方向性がぶれない。

→ ○○だから□□する。

具体目標（具体的な方策）

○一人一人に最善を尽くす学校づくり

- ・一人一人のよさや可能性を捉え、伸ばす指導・支援の工夫
- ・個別最適な学びの充実（特性に応じた指導、ICTを活用した学びの個別化、問題解決的な学習の促進）

○組織力を高める学校づくり ※「チーム清明」で取り組む。

- ・教職員の組織力の一層の向上（年度内のチーム担任制・二人担任制も検討）
- ・地域連携を基軸とした持続可能な学び充実（CSの推進）
- ・個々の持ち味を生かす取組の促進（他教科、若手・中堅・ベテラン⇄OJT）

1 生徒が安心して登校できる学校づくり

- ① 確実な情報共有と共通理解・共通実践（指導の一貫性）
 - ・マイナスの情報ほど早く共有し、対応する。
 - ・プラスの情報は拡げ、新たな安心感につなげる。
- ② 一人一人の生徒の特性やニーズを理解し、その個性に応じた支援や指導
 - ・生徒のよいところを見付け、認め育てる。
 - ・率先垂範・師弟同行（していどうぎょう）

2 温かい人間関係づくりと心の教育の充実

- ① 教育活動全体を通じた道徳教育
 - ・道徳的実践の場の充実 → 人とのつながりを大切にした体験活動の充実
- ② 人権感覚を磨く場の工夫
 - ・自他の生命と人権を尊重する意識を高める指導
 - ・教職員自らも人権感覚を高める。（人権意識チェック表の活用）
- ③ いじめを見逃さない協力体制
 - ・生徒相互、教職員相互との間に日常的に温かい人間関係をつくる。
 - ・全教職員がいじめに対するアンテナを高くして、情報共有を迅速に行う。
 - ・年10回の「悩み・いじめ調査」、年2回の「i-check 検査」を効果的に活用する。

3 学力の向上

- ① 基礎的・基本的な知識及び技能の習得
 - ・授業における教師の丁寧な説明や知識の伝達、ICTの利活用、家庭学習の習慣化
- ② 学ぶ意欲を高め、実感を伴った「分かる授業・見える授業」
 - ・授業における「話す」「書く」活動の充実

4 生徒の主体的な活動の推進

- ① 生徒自らが創り上げる活動
- ② 自分の役割を自覚し、貢献の喜びが実感できる活動

教職員・・・生徒を信頼する→任せる

↓

生徒・・・自ら考える、議論する→挑戦する

5 家庭・地域との連携

- ① 地域・保護者への積極的な情報発信
 - ・ホームページの更新、「あんしんメール」の活用
- ② ボランティア活動等への参加
- ③ コミュニティ・スクール（CS）の推進
 - ・よりよい教育の実現と地域の活性化
 - ・様々な教科の学習支援等